

## EUSI メールマガジン Vol. 089

### 「ブリュッセルの連続爆破テロに思うこと」(戸澤英典)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)  
[http://eusi.jp/content\\_jp/aboutus/about\\_eusi/](http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/)

#### 【EUSI Commentary Vol. 071】

##### 「ブリュッセルの連続爆破テロに思うこと」

戸澤英典 (東北大学大学院法学研究科教授・公共政策大学院院長)

3月22日、ブリュッセルで連続爆破テロが起きた。ザベンテム空港と地下鉄マルベーク駅での爆発で300人以上の死傷者が出たと伝えられている。どちらの現場も、EU関係の業務や研究に携わる者には馴染み深いところで、このメルマガの読者にもテロの脅威を改めてわが身のこのように感じた人も多いに違いない。

昨年11月のパリ同時多発テロ事件の犯行グループの拠点ということでブリュッセルの街並みがテレビに映し出されることも多かったが、テロ警戒レベルは最高の4から今回のテロ直前まで3に引き下げられていた。官憲に追い詰められた犯行グループが身近な場所を狙ったということのようだが、既に(いつものことであるが)ベルギー当局の対応のまずさを指摘する報道もちらほらと見られる。

人口1000万人の小国で、かつほぼ分断状態の連邦国家ベルギーの行政能力があまり高くないことは、現地にて一定期間滞在すれば誰でも実感することだろう。元々ブリュッセルの地下鉄は犯罪が多発する場所として、できれば避けるべき乗り物とする旅行ガイドも少なくない。ベルギーの警察力では、移民の多い地区である北駅や南駅をはじめ、十分な安全を確保することは期待できないだろう。(余談であるが、某国のEU代表部では、厳しい経費節減要求のため公用車が減らされ、アポ先への移動に地下鉄の利用を奨励されるようになったと聞いたが、そうした「国辱」的な風景はさすがに今後なくなるかもしれない。)

テロに対する捜査や対応を見ても、フランスとベルギーでは雲泥の差である。フレデリック・フォーサイスの小説『戦争の犬たち』(1974年)で傭兵グループがクーデタに必要な大量の武器を入手したのがベルギーだったが、それから半世紀近く、相変わらずブリュッセルには欧州最大の武器闇市場があると伝えられる。

こうしたテロの頻発は、いよいよ「危機の70年代」との類似を感じさせる。イタリアの「赤い旅団」、西ドイツのバーダー・マインホフ・グループ(RAF)、そして日本赤軍らによるテロが世間を震撼させていた時代である。

...

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol71.pdf>

## 【EUSI イベントご案内】

### 1. ASEF(アジア欧州財団)より以下のご案内が届いています

#### 第20回「ASEF Summer University」(ASEFSU20) 参加者募集

ASEFでは毎年夏にアジアと欧州の学生・社会人を中心としたサマープログラム「ASEF Summer University」を開催しています。

今年で20回目を迎える「ASEF Summer University」は、"Gateways to Asia & Europe: Connectivity by Land, Sea and Air" をテーマに、アジアと欧州の人と人との繋がり、貿易・経済協力、交通という3つの問題を、現地の政府や産業・市民・研究機関への視察を通じて、参加者同士で議論してゆきます。それらを通じて、未来の両地域の交流増大に向けてどのように取り組んでゆべきか、ともに問題解決を探る試みです。ご関心のある多くの方々の参加をお待ちしています。

期間: 2016年8月15日-9月5日

場所: 中国・ロシア・モンゴルの以下6都市を廻ります

北京→ハルビン→ウラジオストク→チタ→イルクーツク→ウランバートル

対象者: (日本を含む)ASEM参加国51カ国の18~30歳の学生及び若手社会人

参加費用: 無料 (往復渡航費および会期中の交通・宿泊・食費は全て支給)

主催: アジア欧州財団 (ASEF)

応募締切: 2016年4月5日(火) 23:59(GMT)

応募: 以下のASEFのHPよりお申込みください

<https://asiaeuropefoundation.formstack.com/forms/asefsu20>

プログラム詳細:

20th ASEF Summer University (#ASEFSU20)

<http://asef.org/index.php/projects/themes/education/3728-20th-asef-summer-university-asefsu->

## 【EUに関する新刊紹介】

中西優美子編『EU 環境法の最前線 日本への示唆』

(法律文化社、2016年3月24日刊行)

<https://www.hou-bun.com/cgi-bin/search/detail.cgi?c=ISBN978-4-589-03746-6>

Yumiko Nakanishi, ed.,

*Contemporary Issues in Environmental Law: The EU and Japan*

(Springer, published 29 February 2016)

<http://www.springer.com/in/book/9784431554349>

本書の編者である中西優美子先生より、本書のご紹介を頂きました。

---

両書は、EUSI(一橋大学、慶應大学および津田塾大学のEU研究のためのコンソーシウム)(第2期2013年4月-2016年3月)の法分野プロジェクトの成果である。

プロジェクトは、ホップ・ステップ・ジャンプという段階を踏んだ。

1年目は、EU環境法研究会を一橋大学で数回行った。

研究会のメンバーは、川崎恭治先生(一橋大学)、高村ゆかり先生(名古屋大学)、南諭子(津田塾大学)、森田清隆(経団連)、佐藤智恵先生(明治大学)、Andrea

Ortolani 先生(慶應大学)と私の7名から構成された。

ホップとして、同研究会ではそれぞれがテーマについて報告をし、議論を重ねた。2年目は、ステップとして、同研究会を随時開催しながら、2014年10月にEU環境法に関する国際シンポジウム(於:一橋・如水会館)を開催した。このシンポジウムには、本書の執筆者である、Alexander Proelss 先生(ドイツ・トリア大学)および Sara De Vido 先生(イタリア・ベネチア大学)を招聘し、講演をして頂いた。

3年目は、同研究会の開催と共に2015年4月にEU環境法に関する国際シンポジウム(於:一橋大学・佐野書院)を開催した。このシンポジウムには、Hans-Georg Dederer 先生(ドイツ・パッサウ大学)を招聘し、講演して頂いた。ジャンプとして、その成果を本書として刊行することになった。

本書の日本語版は、EUにおける環境保護に関するシリーズ本として、定評のある Michael Schmidt 先生と Lothar Knopp 先生監修の Environmental Protection in the European Union シリーズの第5巻(Volume 5)として出版された本書の英語版の翻訳を基礎としたものである。

...

(続きはこちら↓)

<http://eusi.jp/collaboration/report/eu-envlaw-book2016/>

中西優美子 (一橋大学大学院法学研究科教授、EUSI 所長)

#### 【EUに関するニュース】

- 2016年3月1日 アジア欧州会合(ASEM)発足20周年。欧州対外行動庁(EEAS)、ASEM20年の発展に関する声明
- 2016年3月1日 日・EU高官及び有識者らによるEU新世界戦略や日・EU関係に関するセミナー、東京で開催
- 2016年3月1日 Eurostat、1月失業率(季節調整済)はユーロ圏19カ国10.3%、EU28カ国8.9%で共に前月比減
- 2016年3月1-4日 トゥスク常任議長、EU・トルコ首脳会談準備でバルカン諸国及びトルコ含む7カ国訪問
- 2016年3月2日 欧州委員会、昨年12月のCOP21パリ協定の影響評価を発表。EU内での実施に向けた手続提示
- 2016年3月2日 欧州委員会、難民危機対策として緊急支援メカニズムを提案。3月9日、EU全加盟国承認
- 2016年3月2日 クーレECB専務理事、欧州議会で財政面の共同責任と統合深化のため財政同盟の必要に言及
- 2016年3月2日 モグリーニ上級代表、国連安保理の対北朝鮮制裁決議を受け、EUも制裁措置検討との声明
- 2016年3月3日 トゥスク常任議長、不法経済移民は欧州に来てはならず、密航業者を信じるなど警告
- 2016年3月3日 EU、世界エイズ・結核・マラリア対策基金(Global Fund)へ2017-19年に4.7億ユーロ拠出
- 2016年3月4日 欧州委員会、域内の人の自由移動を定めたシェンゲン協定の運用回復に向け行程表を提示
- 2016年3月4日 Eurostat、昨年EU加盟国における庇護申請者数は125万5600人で過去最高
- 2016年3月4日 アブラモプロス欧州委員(移民担当)、ギリシャは5月12日までに難民登録完了の必要と言及
- 2016年3月4日 EU理事会、対北朝鮮制裁措置拡大。制裁措置対象に新たに16の個人・12の企業を追加
- 2016年3月4日 欧州委員会、女性に対する暴力及びDV防止の欧州評議会イスタンブール条約の批准を提案
- 2016年3月5日 EU報道官、トルコ政府が大手紙「ザマン」を接収した行為を注視、報道の自由を求める声明
- 2016年3月6日 欧州対外国境管理協力機関(FRONTEX)とNATO、エーゲ海での偵察・監視活動協力手続で合意
- 2016年3月7日 EU・トルコ首脳会談、不法移民をトルコへ送還の見返りにEUがトルコに難民対策支援で合意

- 2016年3月7日 ユーログループ(ユーロ圏財務相会合)、キプロス金融支援計画を予定通り3月末終了で合意  
2016年3月7日 EU理事会、EU航空戦略の一環として対日・対中二者間航空安全協定(BASA)交渉開始を承認  
2016年3月7日 Eurostat、2014年EU内の男女間賃金格差は16.1%、非正規雇用格差は子の多い家庭で顕著  
2016年3月8日 欧州委員会、EU各国の経済金融情勢やマクロ経済不均衡是正を総括した2016年欧州半期報告  
2016年3月8日 ティーマーマンスら欧州委員9名、国際女性デーに寄せ、EUの男女平等への取組に関する声明  
2016年3月8日 第12回日・EU鉄鋼対話、東京で開催。保護主義的措置の拡がりや中国の過剰能力など協議  
2016年3月8日 カーニー英中銀総裁、英EU離脱の場合、一部の銀行が国外移転する可能性を英議会で言及  
2016年3月8日 Eurostat、昨年10-12月GDP(季節調整済)はユーロ圏19カ国前期比+0.3%、EU28カ国同+0.4%  
2016年3月9日 モグリーニ上級代表、露拘束のウクライナ軍パイロット・サフチェンコ氏の解放求める声明  
2016年3月9日 第2回日・EU宇宙政策対話、宇宙政策・衛星測位システム・地球観測・宇宙研究協力等協議  
2016年3月9日 英紙サン、女王は英EU離脱支持と報道。英王室、抗議のため報道審査機関に不服申立て  
2016年3月10日 ECB理事会、追加金融緩和決定。政策金利を引下げ、資産購入規模を月800億ユーロへ拡大  
2016年3月10日 ユンカー委員長・ストルテンベルグ NATO事務総長、難民危機対策などEU・NATO協力協議  
2016年3月10日 EU理事会、対ロ制裁6カ月延長を決定。146の個人及び37企業が対象、2016年9月15日まで  
2016年3月10日 ホーキング博士ら英王立協会会員約160名、英EU残留を求める声明を英タイムズ紙に発表  
2016年3月11日 EU・キューバ、第7回ハイレベル政治対話開催、両者間の政治対話・協力協定調印  
2016年3月11日 モグリーニ上級代表、南シナ海情勢に関してミサイル配備に懸念、法の遵守求める声明  
2016年3月11日 ティーマーマンスら欧州委員4名、欧州テロ犠牲者追悼デーに寄せ、対テロ団結に向け声明  
2016年3月13日 EU・英・仏・独・伊・米外相、パリでリビア情勢協議。同国の国民合意政府発足を支持  
2016年3月13日 トルコ首都アンカラで自動車爆弾テロ、37名死亡。モグリーニ上級代表ら、哀悼の声明  
2016年3月14日 EU外務理事会、対ロ政策指針に関する5原則を全会一致で承認、対イラン協力など協議  
2016年3月14日 欧州委員会、域内農家への追加的特例措置発表。酪農の自主供給や養豚業支援や販促など  
2016年3月15日 EU理事会、難民危機への迅速対応のため、緊急支援メカニズム創設に関する規則を採択  
2016年3月15日 欧州委員会と日本の公正取引委員会、独占禁止協力協定の改正に向け交渉準備開始で合意  
2016年3月15日 モグリーニ上級代表、EUの人権啓蒙活動のためのキャンペーン「#EU4HumanRights」発表  
2016年3月15日 欧州委員会、2月4日シリア危機支援会議のEU支援の一部として、4.45億ユーロの支援発表

#### 【編集後記】

今回の巻頭エッセイは戸澤英典東北大学法学研究科教授にご執筆頂きました。戸澤教授には、昨年EUSIが主催したユーロをめぐるシンポジウムにおいて特別講演をお願いしたほか、EUSIの活動に対する深い理解と様々なご協力をいただいています。特に、EUSIが進めている東北地域の大学との連携に当たっては、公共政策大学院長という激務を抱えながらも、東北地域の窓口かつ中心的な役割を担っていただいています。欧州での生活が長く、特に欧州の政治や歴史には深い造詣をお持ちですが、

私と時期はずれているものの、同じように現場で欧州議会の活動をフォローしていた経験もお持ちです。今回は非常に興味深い論稿をいただきました。前回の巻頭エッセイに「国際法(学)からみた EU」を書いていただいた川崎恭治一橋大学教授は、EUSI が設立された当初からの有力なメンバーですが、このたび EUSI の役職から離れられることになりました。

川崎教授は、EUSI 発足時は執行委員として、また 2011 年から 2014 年までは所長として、そして現在までは再び執行委員として、EUSI の活動に深くかかわり、多大な尽力をされてこられました。くしくも戸澤教授と同様に国際公共政策大学院長という激務をこなされながら、EUSI の中心メンバーとして活躍されてきています。都会的でありながらその闊達な人柄によって、内外に多くの友人と太い人脈を作られており、そのことは EUSI にとっても大きな財産となっていました。

4 月からは成城大学に移られるわけですが、これまでの EUSI に対するご貢献に深く感謝するとともに、新しい世界でのご活躍をお祈りしたいと思います。

(藤川哲史・EUSI・一橋大学・EUSI メールマガジン編集担当)

ブリュッセルの中心部から東に 2km ほど行ったところに、EU 地区と呼ばれるエリアがあります。その名のとおりに EU 諸機関や大使館などが集中しているところで、地下鉄シューマン駅(欧州統合の始祖ロベール・シューマン外相より由来)を出て、右手に欧州委員会本部であるベルレモン、左手に閣僚理事会の行われるユストゥス・リプシウスを眺めながら中心部に向かって歩いてゆくと、5・6 分ほどで地下鉄マルベーク駅に着きます。

3 月 22 日ブリュッセル同時多発テロで標的とされた場所のひとつがこの駅でした。午前 9 時 11 分という通勤時間帯を狙ったこの惨劇は、マルベーク駅で 21 名死亡・約 220 名もの重軽傷者を生み出しました。

昨年 11 月 13 日パリ同時多発テロでも、実行犯にはベルギー人が含まれており、先日最後の実行犯が唯一生存したままブリュッセルで拘束された直後に起こった出来事でした。

イラク・シリアを拠点とする IS の勢力に対し、彼らに共鳴した人々が欧州から流入した後にまた欧州へと還流してくるという流れが認められる限り、または自国で育った人々が過激思想に染まり社会に対する強烈な不満を募らせる限り、今後も欧州が攻撃される事態に晒されるかもしれません。

そして我々は時として忘れがちですが、このような暴力の連鎖は欧州だけではなく、トルコやレバノンなど近隣の中東諸国でははるかに深刻な事態に直面しており、この問題を欧州・西洋や中東という地域的・文明的な枠に落とし込むのではなく、欧州や中東や日本など異なる地域を超えて共同で連帯する問題として認識する必要があるのではないのでしょうか。

それはなにも、テロに対する軍事的な対処や治安面の強化という狭い話だけではなく、異なる宗教・人種の包摂や社会的な統合、テロ攻撃後の経済復興支援、経済的・社会的格差の是正、価値の多様化と社会的な寛容の醸成など、より持続的かつ総合的な対処が求められることになるでしょう。

(林 大輔・EUSI 慶應分室・EUSI メールマガジン編集担当)

---

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo  
〒186-8601 東京都国立市中 2-1  
一橋大学 マーキュリータワー #3504 EUSI 事務局

TEL: 042-580-9117 / E-mail: [info@eusi.jp](mailto:info@eusi.jp)

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての  
問い合わせにつきましてはこちら

E-mail: [info@eusi.jp](mailto:info@eusi.jp)

---